

和歌山市駅前開発について



南海電気鉄道株式会社
専務取締役 都市創造本部長
プロジェクト推進室長

高木 俊之

和歌山市駅につきましては、明治36年の開業以来115年間、「市駅」の通称で和歌山市民の皆様が親しまれてまいりました。近年、市駅とその周辺地域の衰退が顕著となり、弊社も過去10年にわたり和歌山市駅の活性化について検討してまいりましたが、純民間事業ではターミナル駅としての活性化に限界がありました。このたび、和歌山市・和歌山県をはじめとする行政の協力を得たこと、特に和歌山市民図書館の駅前移転を決定していただいたことが、弊社が事業化に踏み切る大きな弾みとなりました。この場を借りて、関係者の皆様へ感謝し、御礼申し上げます。

今回の寄稿にあたり、まずは和歌山市駅が如何に長きにわたって和歌山市民の皆様とともにあったかということ、次に今回の「和歌山市駅活性化計画」について簡単に説明させていただきます。

1. 和歌山市駅の誕生

和歌山市駅は、難波一和歌山市駅間が全通した明治36年（1903年）3月21日に弊社の前身「南海鉄道」の南のターミナル駅として現在とほぼ同じ場所で開業いたしました。当時、既に営業を開始していた和歌山駅（現在のJR紀和駅）に対し、「和歌山市駅」と命名され、現在まで「市駅」の通称で和歌山市民の皆様が親しまれています。

市駅には当初から紀和鉄道（のちの関西鉄道、国鉄和歌山線）が乗り入れており、2路線の連絡駅となっていました。明治42年（1909年）には市駅から県庁前を経て和歌浦に至る市電（当初は和歌山水力電気）が開業し、大正3年（1914年）には既に紀ノ川の対岸（後の北島駅）と加太の間で営業していた加太軽便鉄道（現・加太線）が市駅に隣接して和歌山口駅を開設し、市駅は和歌山市の交通結節点として機能するようになりました。現在も市駅には南海本線、加太線、和歌山港線、JR紀勢本線の4路線が乗り入れています。

2. 戦災復興と和歌山市駅の発展

初代の駅舎は開業から42年後の昭和20年(1945年)7月9日の和歌山大空襲で焼失します。その後しばらく木造の仮駅舎の時代が続いた後、昭和30年(1955年)に2代目駅舎が竣工しました。また、昭和31年(1956年)には和歌山港の修築に合わせて、和歌山港駅(後の築港町駅)を開業、徳島・小松島港と鉄道連絡船による輸送を開始しました。

昭和30年代の和歌山市は製鉄を中心に重工業の発展が顕著で、和歌山市の発展とともに市駅も発展したと聞いております。昭和40年(1965年)には乗降客が約5万4千人を数えるようになり、そして弊社初の長期計画「昭和五十年を目標とする長期計画と将来構想」のプロジェクトの一つ「和歌山市駅ビル建設」によって、昭和48年(1973年)「南海和歌山ビル」が竣工、3代目駅舎が誕生します。これに先立つ昭和47年(1972年)には弊社初の自動改札機の試験運用が市駅で実施されました。

南海和歌山ビルは、2階改札への正面階段を覆うアーチ構造や花壇に彩られた華やかな外観を持ち、核テナントの高島屋和歌山店のほか、飲食店、銀行、診療所なども入居し、本格的なターミナルビルであるだけでなく、市民生活の拠点であったと聞いております。一方、モータリゼーションの進行により、昭和46年(1971年)の黒潮国体に向けた道路整備により市電(和歌山電気軌道)は廃止されました。

3. 私と和歌山市駅のかかわりについて

私は昭和58年に南海電気鉄道に入社しました。当時の和歌山市の中心は市駅に近いところにあつて、国鉄和歌山駅よりも市駅のほうが賑わっているように感じました。昭和60年には関西国際空港の開業も決まり、市駅には特急サザンが導入され、南大阪・和歌山を中心とする南海沿線が飛躍的に発展する予感を感じさせま

した。

しかし、この頃を境に、和歌山市の中心市街地の衰退に伴い、市駅周辺の衰退も目立つようになっていきます。平成9年から私は同じ和歌山県の橋本林間田園都市を担当したことにより、和歌山県庁等への行き来に市駅をよく利用していましたが、市駅周辺は平日昼間の人通りが極端に少なかった印象を持っております。

3代目駅舎の誕生以来40年以上経過した現在、市駅の乗降客はピーク時の3分の1にまで落ち込んでいます。南海和歌山ビルの老朽化と、平成26年には核テナントであった高島屋和歌山店が撤退する等、和歌山市の玄関口でありながら、周辺地域も含めて衰退イメージが著しくなりました。私は平成17年から経営企画部に異動となり、以来業務の一部として市駅の活性化に携わるようになりましたが、先にも述べたとおり、純民間事業だけでは限界がありました。

4. 「和歌山市駅活性化計画」について

このたび弊社が和歌山市・和歌山県と連携して策定いたしました「和歌山市駅活性化計画」は、和歌山市民図書館と業務施設、商業施設、ホテル、駐輪場、駐車場等を駅前に再整備することにより都市機能更新と交通結節強化を図るものです。

コンセプトは「人々が集う和歌山らしさを兼ね備えたソーシャルセンター(SC)」。具体的な方針は、①文化・交流拠点の創出 ②都市機能の集積 ③交通結節の強化 としました。

工期は2期に分け、既に第1期計画におけるオフィス棟「南海和歌山市駅ビル」の建設と駅施設等の移設を完了しております。駅施設においては、改札を2階から1階に移し、バリアフリー化することで利便性の向上と交通結節の強化を図ります。

第2期計画は、市街地再開発事業を導入します。南海和歌山ビルを解体・撤去し、和歌山市民図書館やホテル・商業施設等を建設する計画

です。今年3月に和歌山市の権利変換計画認可を受け、南海和歌山ビルの解体工事に着手いたしました。全体完成は平成32年春を予定しております。また、これと並行して和歌山市が事業主体となって駅前広場を整備し、交通結節機能を高めていきます。

建築的な特徴としては、回遊性を高め、賑わいを創出するため、全施設の2階部分をデッキで繋げることにしました。またデザインを統一化すること等により、ターミナル駅としての一体性を確保し、1階・2階通路の軒天等に紀州材を使用することで和歌山らしさを表現する等、和歌山市の玄関口にふさわしい景観を形成し、市駅のイメージを刷新します。

(1) オフィス棟「南海和歌山市駅ビル」

今年3月に竣工したオフィス棟「南海和歌山市駅ビル」は、現在、1階・2階に入居された三井住友信託銀行和歌山支店をはじめ、通信関係・メーカー・製薬などの上場企業を中心に貸室面積の約97%の入居が決まっております。

また、総務省統計局が、政府機関の地方移転推進の一環で和歌山県に新たな拠点を作ることが決まり、当ビルに入居いただくことになりました。総務省は和歌山県を関西圏の統計データ活用の拠点と位置付け、当ビルに「統計データ利活用センター（仮称）」を設置、平成30年4月から統計マイクロデータの提供などの業務を始める予定です。

(2) 和歌山市民図書館

和歌山市民図書館については、運営方法（営業時間・日数、指定管理など）は現在和歌山市にて検討中です。市民図書館が和歌山市駅ビルに移転されることにより、交通アクセスが良くなり、利用者の増加が期待されます。

市民図書館は、昨年3月制定の図書館基本計画では平成31年10月に開業する予定となっております。また、先日、市民図書館に指定管理者制度を導入する旨を盛り込んだ条例が制定

されました。他都市では公立の図書館に民間の運営ノウハウを導入することで賑わい作りに成功している例があると聞いておりますので、弊社としても大変期待しているところです。

(3) カンデオホテルズ和歌山

文化交流機能強化や観光振興等まちの活性化を図るため、全国的な知名度を持つホテルを市駅に導入します。弊社は(株)カンデオ・ホスピタリティ・マネジメントと鋭意交渉を重ね、昨年出店合意しました。カンデオ社は、全国に13棟2,000室を保有するホテルチェーンです。今後も22棟3,900室まで業容を拡大する予定で、関西では今年7月に「カンデオホテルズ大阪なんば」が、8月にユニバーサルシティ駅前に新ブランドである「THE SINGULARI HOTEL & SKYSPA」が開業する予定です。

和歌山市は客室稼働率が平成28年実績で約74%と高く、平成24年以降日本人・外国人とも宿泊者数が増加傾向にあります。カンデオホテルズ和歌山は、将来不足が予想される和歌山市の客室需要に応え、さらに宿泊者の飲食需要など地元の活性化にも寄与できると考えています。

ブランド名	カンデオホテルズ和歌山
ホテル規模	地上12階、122室（予定） （1階エントランス、4～11階客室、12階展望大浴場）
開業予定	平成32年春
ホテル形式	朝食のみを提供する宿泊特化型ホテル

料金・客室タイプなどは現在カンデオ社にて検討中です。

5. 最後に

弊社では今般、大幅な組織変更がありました。私は継続して「和歌山市駅活性化計画」を担当します。

市駅周辺は和歌山県立医科大学の薬学部、東京医療保健大学の和歌山看護学部、和歌山信愛大

学の教育学部の3大学誘致に加え、小中9年一貫校の伏虎義務教育学校の開校、和歌山市民会館の移転新築など計画が目白押しです。しかし、市駅も含めてこれらの計画はあくまでまちづくりの起爆剤であり、次に続く計画があってこそそのまちづくりと思います。

和歌山市全体を見ても、風光明媚な和歌浦や豊富な食材など、デザインすれば十分に全国にPRできる埋もれたリソースがたくさんあると思います。今後も弊社は和歌山市・和歌山県、地元とコミュニケーションを密にし、市駅とその周辺の活性化に努めてまいります。